



環境の森センター・きづがわ建設に向けて

～“環境の森センター・きづがわ”は、皆さんの日常生活に欠くことのできない施設です～

市では、打越台環境センター(精華町内)に代わる新たなごみ焼却施設として“環境の森センター・きづがわ”(鹿背山地内)の建設に取り組んでいます。

建設現場では、建築工事とプラント工事が同時に

進み、作業が入り組んできていますが、工程に遅れなく平成30年9月末の完成に向けて順調に進捗しています。

今月は、6月の建設工事の状況をお伝えします。

建築工事では、建物の壁・床の整備に取り組んでいます

6月の建築工事では、プラットホーム部分とごみピット部分の建物3階の柱や壁、床板の整備をしています。各部分ごとに配筋・型枠工事をおこない、コンクリートを

打設して、壁や床板を造ります。また、コンクリート打設が完了した炉室・機械室部分1階では、外壁(ALC版)の取り付けが始まりました。

ボイラー機器を設置しました

プラント工事では、5月に組み立てたボイラー鉄骨に、ボイラー機器(水胴、汽水胴)を取り付けました。ボイラーでは、ごみ焼却時の熱を利用して水蒸気を作り発電を利用します。水は、水管を通じてボイラーランク下部にある水胴と上部にある汽水胴を循環し、加熱され水蒸気となって汽水胴から取り出されます。

また、ボイラーの出口部分に、エコノマイザを取り付

けました。エコノマイザは、節炭器ともいわれるもので、燃焼ガスの熱を利用してボイラーへ供給する水を予熱する機器です。ごみを焼却することで発生する熱の回収量を増やし、ボイラーの発電効率を向上させるものです。

プラント機器の搬入に際しては、道路沿道の皆さんにご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いします。



打越台環境センターの老朽化が進んでいます

打越台環境センターは、昭和55年4月の稼働開始から今年で38年目となります。定期点検・補修をおこなっていますが、経年により故障頻度が増え、処理能力の低下がみられます。打越台環境センターだけでは、木津川市の家庭から排出される可燃ごみ量を処理できない状況が続いているです。

平成28年度の市の家庭から排出された燃やすごみの量は約11,565tでした。その6割に相当する約7,246tを民間委託により処理しています。

“環境の森センター・きづがわ”的早期稼働に向けて、地元の皆さんをはじめ市民の皆さん、一人ひとりのご理解とご協力を願っています。

